

◎**今週の御言葉** 「主イエス様の執り成し」(イザヤ書45章1～7節、ヨハネの福音書17章1～13節) 「わたしは光を造り出し、やみを創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを造る者。」(45:7) 「わたしはもう世になくなります。彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つになるためです。」(17:11)

◎私達は諸問題の渦中で神のされる御業を理解することが困難？

◎イザヤ書45章は「神の救いについての預言」(40章～55章)の中、主題は「歴史を支配される唯一の神」です。神様のご計画は計り知れない(55:8-9)。やがて神の民に臨むバビロン捕囚、70年後ペルシャ王クロスを用いてのカナン帰還(1-13)、そのような遠大な計画を誰が知ることが出来るだろう。「あなた(クロス)はわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。それは日の上の方からも西からもわたしの他には、誰もいないことを、人々が知るためだ」(5-6)。ひとり一人の人生も、この世界も、すべてを誰よりも深く理解し、動かしている方がおられる。人はそれに気づかず、自分が動かしているように思う。しかしやがてそれが誰であるかを知ることが出来るのです。

◎主イエス様は訣別説教を終えてから「目を天に向けて」祈られたのです。「父よ。時がきました。」(1)。この「時」は十字架による贖罪の時であり、子なる神であるキリストが栄光を現すと同時に、それを通して父の栄光も現される時なのです。父なる神様は子なるイエス様に「すべての人を支配する権威」を与えられたのです。それは政治的な支配と言うことではなく、終末における救いの権威なのです。「あなたからいただいたすべてのもの」とは、「ひとり子を信じる者」(3:16)であり、イエス様を「受け入れた人々、その名を信じた人々」(1:12)であり、彼らは神の命にあずかり、神の子らとされるのです。「永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストを知ること」なのです(3)。この「知る」とは知性的・理論的側面であるよりも、人格的な関係の中で生起するものなので、信仰によって与えられる、神様或いはキリスト様との人格的な交わりなのです。主イエス様は「あなたがわたしに行わせるためにお与えになった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。」(4)。この「業」とは十字架の業なのです(「完了した(成し遂げられた)」19:30)。ここに栄光が現されるのです。弟子として選ばれ、神のものとされた共同体は、神の「み言葉を守る」者なのです。この弟子たちの共同体は父のものであると同時に父と一体である神である子なる神のものであるのです。ですからこの世に残る「弟子たち」のために祈られたのです。即ち迫ってくる迫害から守られ、分裂から守られ、一致して共に歩むことが出来るようにとの祈りなのです。父と子が一つであり、子なるキリスト様は神であるとの信仰が教会の一致の要であるのです。